

## 第 19 回高分子分析討論会

天候にも恵まれた 2014 年 10 月 16、17 日の 2 日間、高分子分析研究懇談会主催の高分子分析討論会が名古屋市国際会議場(白鳥ホール)で開催された。国際会議場では複数回の開催が過去に行われたが、白鳥ホールは初めての利用であった。会場が横並びであったため、プレビュー講演からポスター発表へのアクセスが良く非常に使いやすい会場であった。本年は、発表件数は 95 件、参加者数は 313 名となり、最大規模での開催となった。また、協賛企業数は 31 社を数え、両日にわたりテクニカルレビューとポスター会場内での各種装置・データ処理ソフトなどの説明とデモが行われた。

初日午前中は、光岡拓哉(豊田中研)実行委員長の挨拶による開会の後、第 1 回の研究発表が行われた。本会の発表形式は、最初に口頭でそれぞれ 2 分半のプレビュー講演を行った後、1 時間半のポスター発表を行うものである。プレビュー講演の後には協賛企業によるテクニカルレビューを 1 社あたり 2 分半で開催した。このテクニカルレビューは企業の展示に関して簡単な紹介を壇上で行う発表であり、昨年度より導入を開始し好評を得ている。ポスター発表では、至る所で活発な討論が交わされ、会場には熱気が溢れていた。また、高分子分析における研究対象の広さから、発表内容は、高分子分析のみならず、学問的にも技術的にも幅広く、多岐に渡っていた。

午後は、三菱化学 開発研究所 高分子学会フェローの佐野博成様より「高分子材料の素顔を眺める」の演題で特別講演が行われた。高分子を SEM や TEM を用いて調べることで、物性と構造の関係を明らかにする手法や事例について講演が行われた。続いて、第 2 回の研究発表が行われた。また、同夕には白鳥ホールに近いレストラン「カスケード」にて懇親会が開催され、多くの方々にご参加いただいた。料理や酒を囲みながら和やかな雰囲気の中で盛況のうちに初日の日程を終えた。

二日目午前には第 3 回、午後より第 4 回の研究発表が行われ、その後、京都工芸繊維大学特任教授 元大日本印刷株式会社理事の黒田孝二様より「ものづくりの未来を拓く感性と科学の共創 ～伝統技術の計測とシミュレーションから活用展開へ～」の演題で特別講演が行われた。伝統的な技術で作られたものについて、その状態をマイクロレベル・マクロレベルで観察し、さらに様々な測定を駆使することで、科学的な解釈での裏付けを行った事例について講演が行われた。

一般研究発表に対する表彰として、審査委員の選考による「審査委員賞」4 件、参加者全員の投票に基づく「ポスター賞」4 件をそれぞれ選出し、受賞者には懇親会および閉会時に賞状及び副賞が授与された。受賞した演題と演者を以下に記した。

### ◆審査委員賞

- GC/MS の多変量解析とパルス NMR を組み合わせた ABS 樹脂の組成分析 北瀬 恵

(豊田合成(株))

- タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法による高分子表面の添加剤のイメージング質量分析 嶋津 亮(関西大化学生命工)
- 熱分解 GC×GC-MS とケモメトリクスによる透明樹脂材料の黄変機構解析 岩本 浩介(日立化成(株))
- リン系誘導体化試薬による樹脂中の水酸基、カルボン酸基分析の検討 仲村 仁浩(DIC(株))

◆ポスター賞

- ヤモリテープによる Py-GC/MS に有用な新規サンプル保持方法の検討 神谷嘉美(都産技研)
- 凍結切断レプリカ法による液中分散微粒子の電子顕微鏡観察 中山智香子(日本電子(株))
- 二段階反応熱分解 GC による強極性メタクリル酸を含む三元共重合体の精密組成分析
- 竹内薫(名工大)
- ポリオレフィン測定のための混合ポリマーの分離手法 吉川 千明(旭化成(株))

来年度は節目となる第 20 回高分子分析討論会を茨城県のつくば国際会議場にて 10 月 27 日(火)～10 月 29 日(木)の 3 日間にわたり開催いたします。例年よりも開催期間を 1 日増やし、より活発な討論を行う会となる予定です。皆様の参加をお待ちしています。

最後になりましたが、本会を開催するにあたり、企業協賛いただいたアジレント・テクノロジー(株)、伊勢久(株)、インフォコム(株)、エーエムアール(株)、(株)エス・ティ・ジャパン、(株)カモソフトウェアジャパン、共立出版(株)、(株)講談社サイエンティフィック、ジーエルサイエンス(株)、(株)システムズエンジニアリング、(株)島津製作所、ジャスコインタナショナル(株)、昭和電工(株)/Shodex®、スペクトラ・フォーラム、(株)センシユール科学、(株)デジタルデータマネジメント、巴工業(株)、名古屋工業大学大型設備基盤センター、(株)NEAT、日本ウォーターズ(株)、日本電子(株)、日本分析工業(株)、(株)パーキンエルマージャパン、(有)ヒューズ、(株)フジキン、ブルカー・エイエックスエス(株)、フロンティア・ラボ(株)、ライカマイクロシステムズ(株)、(株)リガク、LECO ジャパン(合)、レニショー(株)各社に深く感謝いたします。

[学校法人 明治大学理工学部 本多貴之]



図 特別講演風景

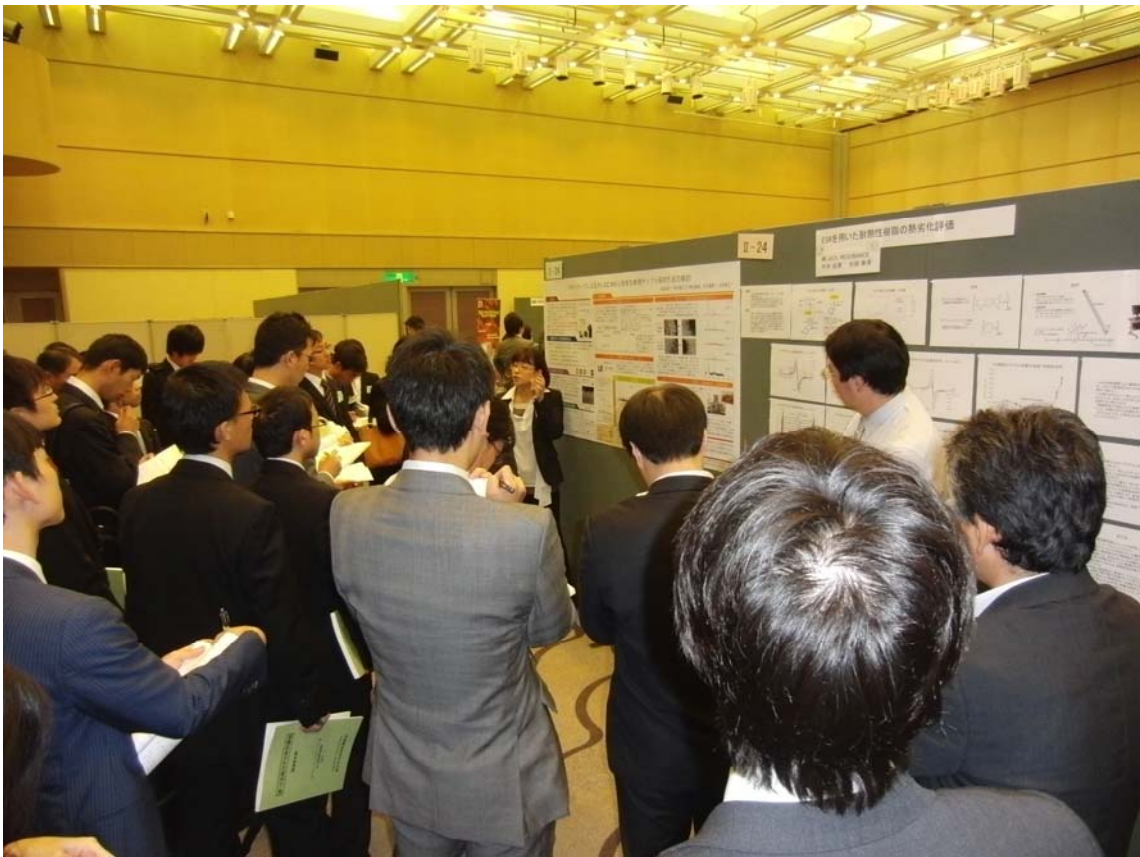


図 ポスター会場風景